

## 避難生活を意識した防災教育の実践例(家庭科の場合)

避難生活において重要な「食」という視点から、家庭科の調理実習と防災教育をリンクさせた実践を紹介する。これは、鳴門教育大学教職大学院に派遣された阿南市立阿南第二中学校の長谷川静教諭の研究成果(2016年度)である。備蓄食料を使った調理や、非常時でも栄養価があり、楽しみのある食事のあり方について考えさせたものであり、特に、被災時ではライフラインが停止することが想定され、調理実習時に、火と水、調理道具に制限を加え、短時間(15分で3品)の調理実習を開発した。これによって、リアルな実践訓練となり、平時でも節電や節水、省エネを考える機会になると考えた。

### 主 題「知ろう、考えよう、行動しよう、自分たちの防災・減災のために」

#### (1) 題材の目標

自分の日常生活を振り返り、災害に対する備えにはどのようなことが必要か確認し、いざという時に自分の力で自分たちを守ることができるように、自助のための基礎的・基本的な技術や知識を身につける。また、避難先等における共助のために自分ができることを考え、それらを行動に移すために工夫する。

#### (2) 指導計画 (計6時間で設定、一部、総合的な学習の時間を活用)

- ① 考えよう！備えよう！自分や家族を守るために……………1時間
- ② 自分の避難リュックを準備しよう……………1時間
- ③ 「もしも」の時でも美味しく食べよう……………1時間
- ④ 栄養教諭から講話(健康・安全・衛生面)……………1時間
- ⑤ 備蓄食料を使った調理実習を考えよう……………2時間



#### (授業の様子)

**(調理実習)「もしも」の時でも美味しく食べよう**

授業の流れ

9:40-9:45	注意事項確認
9:45-10:00	調理実習
10:00-10:05	試食・片付け
10:05-10:20	アドバイス
10:20-10:30	まとめ・発表

設定条件  
・使える水は2リットル  
・ガスは15分

今日、使えるもの(調理実習)

- ・新聞紙
- ・サランラップ
- ・アルミホイル
- ・紙コップ1人2つ
- ・割り箸1膳
- ・はさみ
- ・計量カップ
- ・水 2L
- ・フライパン

\*乾燥野菜入りのレトルトがゆ、アルファームのかぼちゃがゆ、もちっ粉、パスタなど

## 避難所設営を意識した教員研修の実践例(HUG研修の活用)

大規模災害が起きたときは、ほぼ間違いなく学校が避難所になり、教職員は初期対応を迫られる。いざというときにどのようなことが起こるのか、避難所運営ゲーム(HUG)を使い、机上訓練を行うことをお勧めしたい。HUGは、避難所運営を全員で考えるためのアプローチとして静岡県が開発したものであり、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを、模擬体験するゲーム(登録商標 第5308380号)である。なお、この研修後に、話し合い活動を行うことが大切であり、そこで合意形成を図ることに意義がある。



(写真上 校内研修の様子)

\*研修により、当事者意識の変容が分かる。

## 避難所で必要となる対応(事前準備の工夫)

避難者(あるいは児童生徒)が、心肺停止した時など、救急措置の研修は欠かせない。特に、教職員(これから教員をめざす学生含め)は、人工呼吸やAED訓練を定期的の実施すべきである。

(写真右 鳴門教育大学の授業で実施しているAED訓練 2016年11月)



また、幼児や児童の遊び場も提供できるようにしておく、管理しやすくなる。その場合、スペースをとらず、簡易な遊びが望ましく、鳴門教育大学地域連携センターでは、(株)おもちゃ王国との共同研究を通して、幼児が熱中できるブロック遊びを提唱している。2016年に、大きめのジュニアブロック「はじめてセット」を開発し、商品化した。

(写真下 はじめてセットでの遊び支援、おもちゃ王国直販のセット)



発行 鳴門教育大学 地域連携センター(所長 阪根健二)

# 学校が「避難所」になったら

鳴門教育大学 地域連携センター

学校は「教育施設」であるが、多くの学校が「避難所」としての指定を受けているため、災害が発生すると、避難所として重要な役割を果たすことになる。また、指定を受けていない学校でも、一時的に避難所になることが予想される。そのため、災害発生時における学校運営や教職員の役割分担などを、事前にしっかりと決めておかないと、予期せぬ混乱を招くことがある。

ここでは、そうした際の対応やヒントなどをまとめ、今後の災害に備えるものである。

## 災害発生(地震や津波等)

- ① 被害評価  
(災害種別の確認、被害状況の確認)
- ② 緊急対応  
(児童生徒・教職員の安全確保と確認作業)  
(災害本部の設置、連絡手段の確保)
- ③ 復旧・復興  
(避難所対応、施設復旧、学校再開)

### 避難所になったときに(例示)

- ① 収容場所の確保と指定  
(避難者の誘導、施設開放区域の指定)
- ② 救援物資の調達と配布  
(備蓄物資の確認、配布のルール決め)
- ③ トイレなどの衛生管理  
(仮設トイレの確保、水洗用の水確保)
- ④ ライフラインや通信手段の確保  
(電気・ガス・電話などの確認と復旧)
- ⑤ 避難者の名簿と組織づくり  
(避難所運営への対応と情報提供)
- ⑥ 学校再開への準備  
(児童生徒・教職員の被災状況の確認)

自治体職員、自主防災組織へ運営引継ぎ  
学校再開に全力を傾ける。

### 避難訓練をリアルに 実践化させる工夫が必要

避難訓練を出来るだけ、実際に近づける工夫が必要である。例えば、避難者が殺到することが予想されるため、番号札を使い、数字を示すことで人員整理が容易になる。対応も屋外を想定する。



班ごとの人員集約(番号札の活用)



炊き出し訓練の様子(屋外での対応)

写真:鳴門教育大学防災実習(2016年12月10日)  
阿南市福井公民館にて  
協力 徳島県南部総合県民局

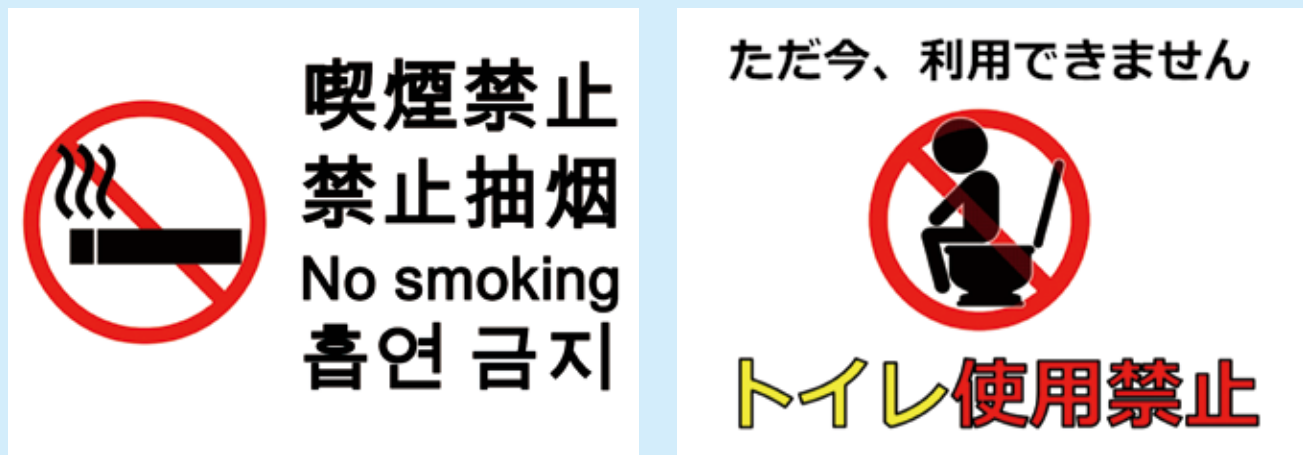


## 必要な表示物

避難所に必要なアイテムとは、まずは掲示物である。避難所開設にあたり、ユニバーサルデザインを意識して、事前に作成した掲示物を貼りだし、混乱を防ぐことが求められる。

下記の表示例を、拡大コピーすれば、そのまま使える。(多言語対応が望ましい。)

(フリー貼り紙サイト ペラガミ.com 許諾済)



## 表示の活用

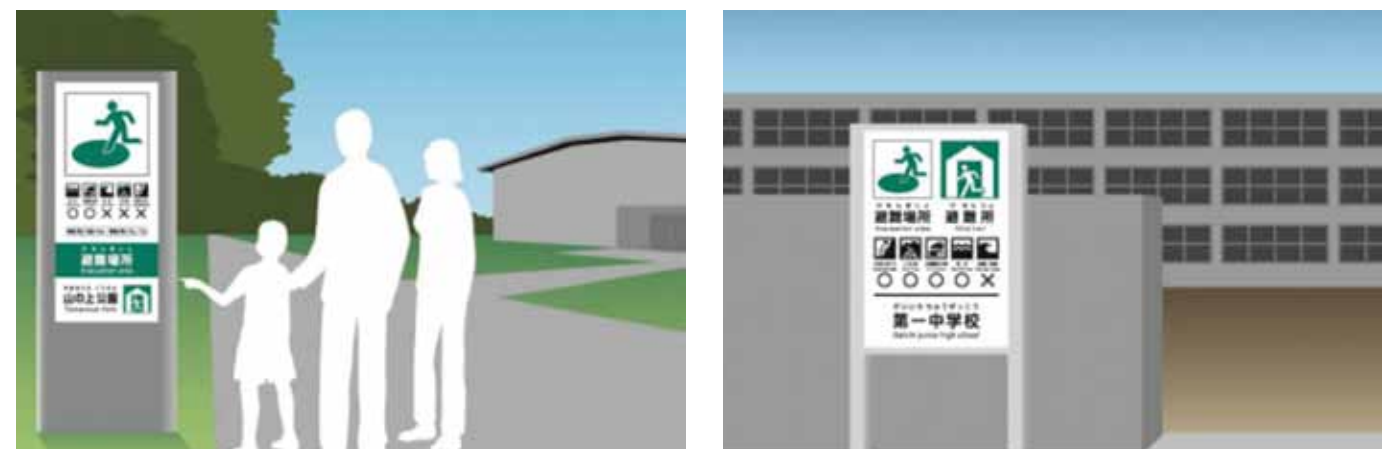
避難者対象の開放区域を指定すると同時に、禁止区域(職員室等)や土足等の可否などについて、早急に表示しておきたい。また、正門や玄関など見やすい位置をあらかじめ決めておき、矢印等の図を活用することも望ましい。

(日本工業規格(JIS)災害種別の図記号(JIS Z8210)から引用)



注) 事前に作成した表示は、ラミネートしておくこと、雨天などにも対応できる。

(設置場所例)



## 受付名簿を用意

### 避難者受付簿

番号	入所日	氏名	備考
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

施設開放区域内に受付を設置し、上記の名簿を準備しておく。(備考欄は、学校にあわせて修正する。)

## 避難所設営チェックリスト

避難所開設段階において、下記のリストで確認する。

(静岡県防災資料から抜粋)

- 施設の安全確認・避難所の開設
- 避難者名簿の作成: 避難者数( )世帯, ( )人
- 災害時要援護者の安否確認: 安否を確認する災害時要援護者数( )人
- 避難所レイアウトの作成
  - 施設全体のレイアウト
  - 体育館等屋内空間のレイアウト
- 居住組の編成: 居住組数( )組
- 居住スペースの割り当て
  - 避難者人数分の居住空間と通路の確保
  - 最低限の共有空間の確保
    - 避難所運営本部
    - 受付
    - 福祉避難室
- トイレの確保
- 避難所運営本部の設置
- 緊急必要食料・物資の調達及び配給
- 市町災害対策本部への連絡: 施設の被災状況, 避難者の入所状況, 負傷者等の状況, 緊急必要食料・物資, 連絡手段(通信可能な電話, FAX, 地域防災無線等)
- 避難所生活の基本的なルール作成
- 情報の収集と伝達(掲示板の設置)